

川越市中央通り『昭和の街』周辺地域における 「ときめくまち」ウォークラリー 高齢者の住みよい地域づくりに向けて

実施担当研究員：小瀬博之（総合情報学部総合情報学科 教授）

尾崎晴男（総合情報学部総合情報学科 教授）

齋藤伊久太郎（客員研究員）

「昭和の街の感謝祭：昭和の街ツアー&ウォークラリー」

開催日時：平成 27 年 9 月 12 日（土曜日）13:40～15:00・15:45～17:10

場 所：川越市蓮馨寺を起点とした「昭和の街」周辺地域

対 象：川越市民ほか

参加者：19 人（第 1 回 11 人、第 2 回 8 人）

参加費：無料（参加者には「昭和の街の感謝祭」で使える 500 円分のチケットを進呈）

「2015 アースデイ・イン・川越 立門前：川越 昭和・大正の街「ウォークラリー」

開催日時：平成 27 年 10 月 4 日（日曜日）10:30～11:15・11:30～12:15・12:30～13:15・13:30～14:15

場 所：川越市蓮馨寺を起点とした「昭和の街」「大正浪漫夢通り」周辺地域

対 象：川越市民ほか

参加者：38 人（ルート①9 人、ルート②9 人、ルート③8 人、ルート④12 人）

参加費：無料（参加者には「2015 アースデイ・イン・川越 立門前」会場並びに周辺の商店で使える 500 円分のチケットを進呈）

1.事業の背景と目的

連雀町交差点から仲町交差点に至る中央通りとその通りの中央で垂直に交わる立門前通りで構成される「川越昭和の街」（川越名店街、中央通り二丁目商店会、立門前商栄会）は、昭和 30 年代中ごろまでは川越中心市街地として大いに栄えた。そのため、昭和時代を想起させる建築物や看板、地域に密着した店舗など点在している。また、この地域には蓮馨寺を中心として歴史的な建造物や石碑などが多く残されていて、歴史の深さを感じさせる要素が数多くある。

一方で、川越市は、65 歳以上の高齢化率 24.96%（2015 年 12 月 1 日現在）の超高齢社会にあり、高齢者にとっての住みよい地域づくりは避けては通れない課題である。

そこで本事業では、東洋大学と対象地域とが連携しながら地域固有の魅力を見出し、超高齢社会に適合する「ときめくまち」を見出すための知見を得ることを目的として、前年度のワークショップの結果¹⁾をより詳細に把握するためのウォークラリーを 2 つの方法で実施した。

2.事業の実施内容

2.1 予備調査

ウォークラリーに先立ち、6 月 28 日（日）9:15 から 15:00 まで、「昭和の街」（中央通り連雀町～仲町交差点）を中心とした地区の道路を踏査して、この地区を特徴づけるような要素（主に建物）を抽出して写真撮影を行った。調査対象範囲は、川越中央通り「昭和の街」を楽しく賑やか

なまちにする会（以下、昭和の街の会）が川越市地区街づくり推進条例に基づく地区街づくり協議会登録団体として活動対象地域としている範囲と同一とした²⁾。実施及び結果概要を表-1に、調査範囲と抽出した写真の分類結果を図-1に示す。なお、地域の境界にあたる道路については、道路の両側の町並みを対象とした。

土蔵や町家の要素は、「仲町交差点の北側」「大正浪漫夢通り」「川越街道の北側」に連続して存在している。洋風の旧家は「仲町交差点から連雀町交差点」「立門前通りの西側」に連続して存在している。これにより抽出した要素から、この町の魅力は、単体ではなく連続している状態でより高められるものと考えられる。この結果を考慮した上で、各行事の主催者や関連範囲を考慮して、ウォークラリーのルートを決定した。

表-1 予備調査（6月28日）の実施及び結果概要

日時	平成27年6月28日（日）9:15～15:00
調査地区	昭和の街の会が川越市地区街づくり推進条例に基づく地区街づくり協議会登録団体として活動対象地域としている範囲
参加者	3人（研究員：小瀬博之・齋藤伊久太郎、総合情報学部4年：内田竣也）
実施方法	通りを歩きながら、この地区を特徴付けると考えられる魅力的な要素（建物、路上にある構成要素など）について写真撮影を実施した。建物については基本的に道路の反対側から建物のフェサードを撮影した。
結果概要	<p>撮影枚数：226枚</p> <p>1.△「神社・仏閣および手水鉢・梵鐘などの付属物、明治期の土蔵、町家土蔵や町家」：53箇所</p> <p>2.□「洋風の旧家(門、塀、医院などの洋風建築、商店の看板建築、アーケード)、建物の付属物(ファサードの改修、物干し場)」：66箇所</p> <p>3.○「営業していない古い店舗の看板、その他付属物(電柱、レンガ、タイル)」：26箇所</p> <p>4.◇「営業している店舗の売り物、昔の意匠をモチーフにした建物」：27箇所</p>

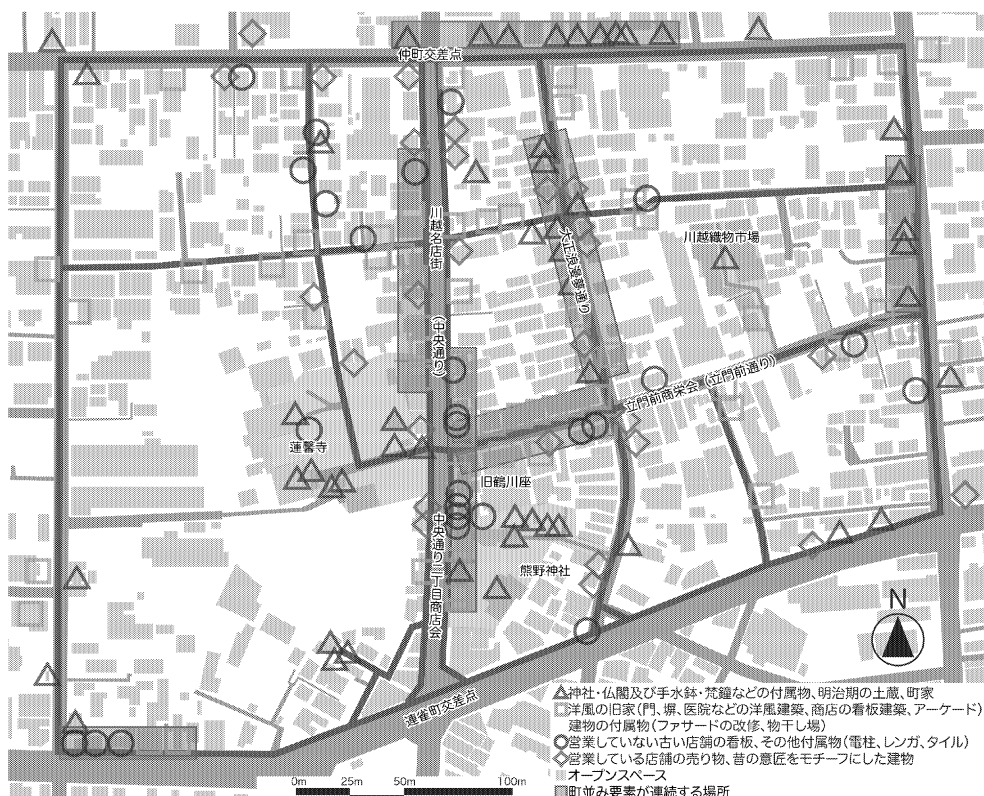


図-1 6月28日の予備調査の範囲と分類結果

2.2 昭和の街の感謝祭：昭和の街ツアー&ウォークラリー

昭和の街の会では、9月12日（土）11:00～19:00に蓮馨寺を会場として「昭和の街の感謝祭」を実施した。商店街や地域の活性化を目的として、飲食物の販売、展示・ワークショップ、ライブ演奏等を行った。その一環で、同会とNPO法人川越蔵の会（以下、蔵の会）と共同で「昭和の街ツアー&ウォークラリー」を実施した。

昭和の街の会と蔵の会では、前年度の昭和の街の感謝祭において昭和の街ツアーを実施していたが、今年度から3年間の計画で、地区を3つに分割してツアーを企画していた。本事業計画としては、この地区の魅力的な要素を昭和の街の活動範囲から抽出することを目的としていたので、前半の蔵の会の案内に続いて、蓮馨寺の北側を中心とした案内を小瀬が行うことになった。

昭和の街ツアー&ウォークラリーの実施概要を表-2に示す。撮影した写真は、各人で重複するもの（連続撮影されたもの）や対象が不明なものを除外した上で、その撮影意図を写真から解釈して分類した。撮影された写真の分類基準を表-3に示す。結果として611枚の写真（1人あたり平均32枚）を抽出し、予備調査を参考にして、写真の撮影物のカテゴリーを「①町家・蔵・長屋」（144枚）、「②専門店などの店舗」（98枚）、「③寺社・石碑などの歴史的建造物」（168枚）、「④看板・街灯・サイン」（55枚）、「⑤町並み」（64枚）、「⑥その他」（82枚）に分類した（表-4）。

これらをさらにそれぞれ撮影された要素に分類した結果、複数人の撮影した114要素と1人だけが撮影したその他79要素、計193要素が抽出された。このうち、5人以上が撮影した要素は41あった。41要素の写真を図-2に、ウォークラリーのルートとともに41の要素の場所を図-3（後述の2.3の結果も含む）に、主要な要素の名称と撮影枚数を表-5に示す。なお、「昭和の街の顔出し看板」と「ポスター」は複数の箇所にあるものなので、それぞれの場所を地図上に示した。多く撮影された要素は、上位から「Studio1925」（16枚）、「熊野神社本殿」（15枚）、「旧鶴川座」（13枚）、「おびつ」（13枚）、「庚申塔」（12枚）となった。

表-2 昭和の街ツアー&ウォークラリー（9月12日）の実施概要

日時	平成27年9月12日（土）（第1回）13:40～15:00ごろ、（第2回）15:45～17:10ごろ
場所	川越市 昭和の街（川越名店街、中央通り二丁目商店会、立門前商栄会の3つの商店街のエリア）、蓮馨寺、熊野神社
参加者	19人（第1回11人、第2回8人） 年代：20代4人、30代2人、40代2人、50代3人、60代5人、70代1人、80歳以上2人；性別：男16人、女3人；居住地：川越市内在住11人、それ以外8人；来訪頻度：ほぼ毎日：2人、1週間に1～3回程度：5人、1か月に1～2回程度：6人、1年に1～6回程度：4人、これまでに回数不定期に：2人
実施方法	タブレット端末を貸与して、「昭和の街」らしくて「いいね!」と思ったもの・こと・景色などを自由に撮影してもらう。何がよいのかわかるように撮影するよう指示する。

表-3 撮影された写真の分類基準

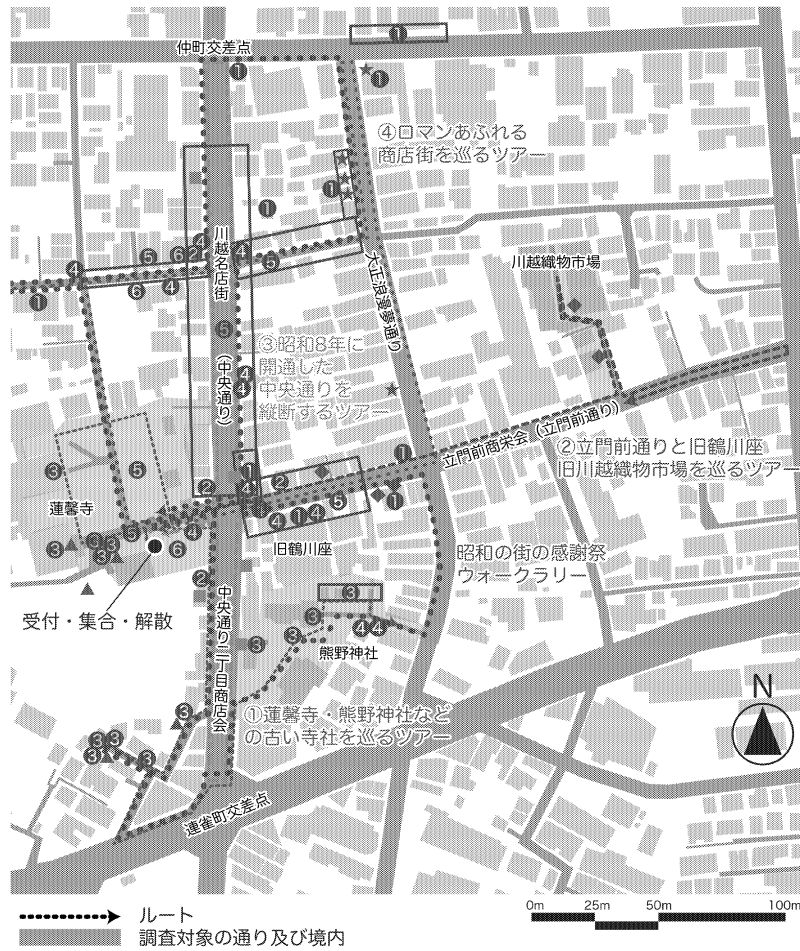
①町家・蔵・長屋	商家を中心とした明治～昭和初期の建物であり、建物全体を構図として撮影されたもの。営業していない店舗や事務所・住宅用途の建物を含む。連続する複数の建物を構図に入れている場合も含む。
②専門店などの店舗	戦後以降の商家や商店の内部・売り物を対象に撮影されているもの。
③寺社・石碑などの歴史的建造物	寺社建築物・石碑・山車などの歴史的な建造物。
④看板・街灯・サイン	固定された建物に付随する看板、道路に付随する街灯、その他サインを対象に撮影されたもの。
⑤町並み	複数の建物が連続して撮影されており、かつ通りの正面を見通して撮影しているもの。
⑥その他	ポスターや機器、小物など固定されていないもの。または建物のディテールを撮影したもの。その他分類が困難なもの。

表-4 撮影された写真の分類結果

カテゴリー	要素数	枚数
①町家・蔵・長屋	40	144 枚
②専門店などの店舗	39	98 枚
③寺社・石碑などの歴史的建造物	39	168 枚
④看板・街灯・サイン	30	55 枚
⑤町並み	13	64 枚
⑥その他	32	82 枚
計	193	611 枚



図-2 5枚以上撮影された主要な41要素（左上から横に撮影枚数が多い要素を並べている）



2015年9月12日(土) 昭和の街の感謝祭：撮影枚数の多い41要素 → ①町家・蔵・長屋
 ●●●● ウォークラリールート ②専門店などの店舗
 2015年10月4日(日) アースデイ・イン・川越 立門前：高評価各5地点 ③寺社・石碑などの歴史的建造物
 ▲①蓮馨寺・熊野神社などの古い寺社を巡るツアー ④看板・街灯・サイン
 ◆②立門前通りと旧鶴川座・旧川越織物市場を巡るツアー ⑤町並み
 ■③昭和8年に開通した中央通りを縦断するツアー ⑥その他
 ☆④ロマンあふれる商店街を巡るツアー

図-3 主要な41要素のカテゴリーと位置

表-5 主要な41要素の名称と撮影枚数

カテ要素 ゴリ	撮影 枚数	カテ要素 ゴリ	撮影 枚数	カテ要素 ゴリ	撮影 枚数
① Studio1925	16	③ 本阿弥稻荷神社灯笼	7	① 川越商工会議所	6
③ 熊野神社本殿	15	⑤ 昭和の街(中央通り)風景	7	⑥ ポスター	6
① 旧鶴川座	13	① 川越名店街おびつ第二売場 建物並び	7	⑤ 蓮馨寺正門参道	6
② おびつ	13	② 大黒屋米穀店	7	① 立門前通りの廃店舗建築	6
③ 庚申塔	12	③ 熊野神社新鳥居・御神木	6	② 肉の東屋	6
① カニヤから伊勢源の並び	11	⑥ 球根皮剥器	9	④ 黄門そば看板	6
③ 道灌の山車と山車蔵	11	① 仲町交差点の旧店舗建物	9	④ 立門前通り街灯・しだれ	5
③ 蓮馨寺水舎の彫物の玉	10	⑥ 昭和の街の感謝祭展物・ス タッフ	8	① 通りの後ろに見える蔵	5
② 轟屋	10	③ 本阿弥稻荷神社本殿	8	⑤ 昭和の街の感謝祭会場風 景	5
③ 蓮馨寺水舎の彫物	9	⑥ 昭和の街の顔出し看板	8	① 大野屋	5
③ 本阿弥稻荷神社鳥居・参道	9	① 仲町の蔵と町家の並び	7	③ 蓮馨寺本堂	5
③ 熊野神社其他神社	9	③ 蓮馨寺祈願所	7	⑥ 大黒屋米穀店置物	5
⑤ 立門前通り風景	9	③ 蓮馨寺水舎の水鉢	7	⑤ 仲町商店街東小路界限	5
⑤ 蓮馨寺北門前界限	9	③ 本阿弥稻荷神社木刀	7		

表-6 2015 アースデイ・イン・川越 立門前：川越 昭和・大正の街「ウォークラリー」(10月4日)の実施概要	
日時	平成27年10月4日(土) 10:30~11:15(ルート①)・11:30~12:15(ルート②)・12:30~13:15(ルート③)・13:30~14:15(ルート④)
場所	4つの異なるツアーを実施 ▲①蓮馨寺・熊野神社などの古い寺社を巡るツアー(蓮馨寺→中央通り二丁目商店会→本阿弥稲荷神社→熊野神社) ◆②立門前通りと旧鶴川座・旧川越織物市場を巡るツアー(立門前通り→旧鶴川座→旧川越織物市場) ■③昭和8年に開通した中央通りを縦断するツアー(川越名店街→中央通り二丁目商店会) ★④ロマンあふれる商店街を巡るツアー(蓮馨寺北門前→中央通り~大正浪漫夢通り間路地→大正浪漫夢通り)
参加者	延べ38人(ルート①9人、ルート②9人、ルート③8人、ルート④12人) 年代(年末現在の満年齢)：10代3人、20代7人、30代13人、40代6人、50代4人、60代4人、70代1人；性別：男23人、女15人；居住地：川越市内在住32人、それ以外6人；来訪頻度：エリア内に住んでいるまたは勤めている14人、1週間に1~3回程度5人、1か月に1~2回程度4人、1年に1~6回程度：13人、これまでに数回不定期に1人、無回答1人
実施方法	案内者が指定した内容について4段階で評価(顔文字で表現して「1.とてもよい」「2.よい」「3.どちらともいえない」「4.あまりよくない」と教示)。ルート①17要素、ルート②17要素、ルート③28要素、ルート④23要素の計85要素が対象。

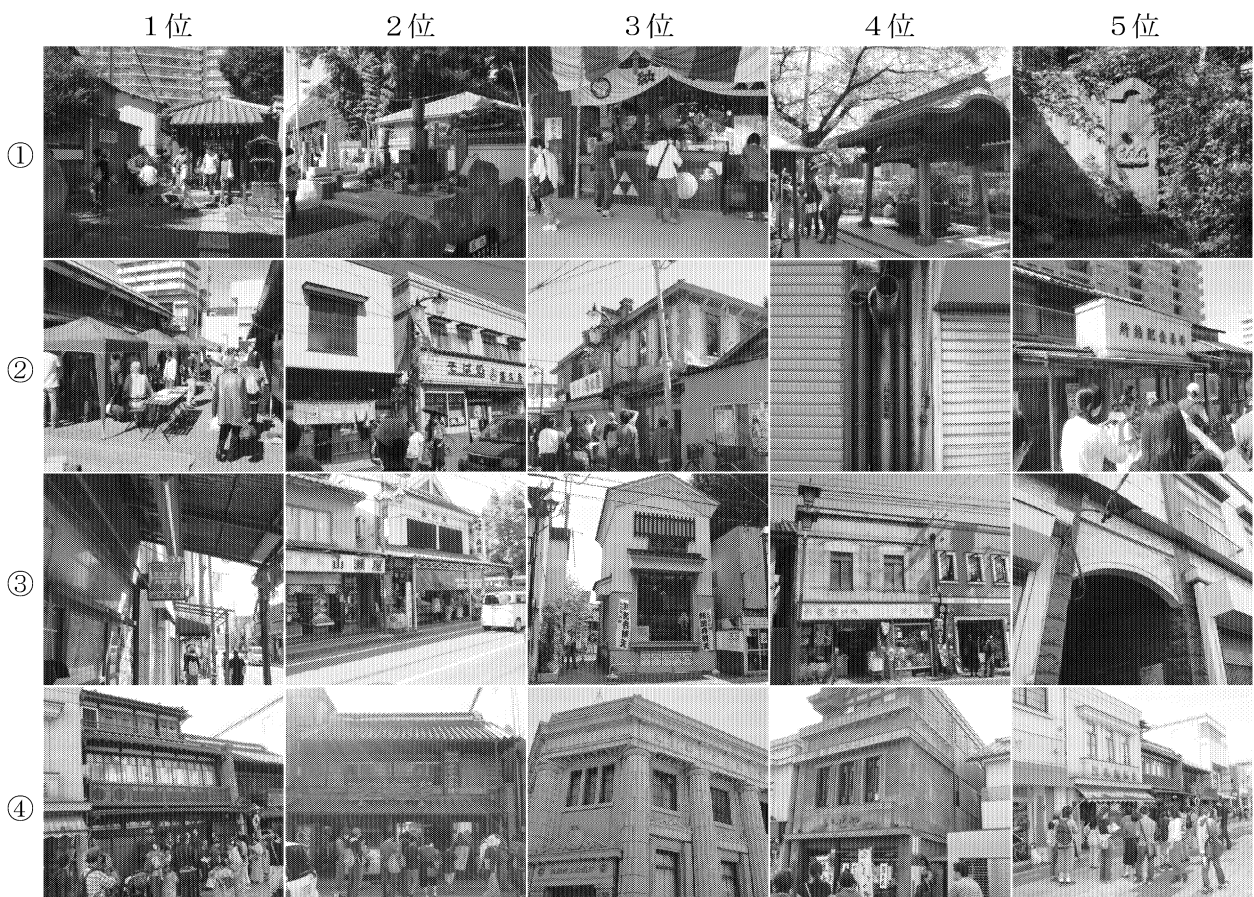


図-4 各ルートで評価の高かった5要素

(上からルート①、ルート②、ルート③、ルート④。左側から評価の高いもの)

2.3 2015 アースデイ・イン・川越 立門前：川越 昭和・大正の街「ウォークラリー」

9月12日の「昭和の街の感謝祭」は多数の来場者があったにもかかわらず、「昭和の街の感謝祭：昭和の街ツアー&ウォークラリー」の参加者は少なかった。これは、調査時間が1.5時間という長時間であることが理由であると考えた。また、10月4日においては調査範囲がさらに広がるため、当初は自由に回遊することを意図していたが、まちなかの主要な要素を説明しながら参加してもらうことの有用性を見出したことと、自由な回遊では安全性の確保に課題があったことから、

10月4日のウォークラリーについても、案内者が説明をしながらツアーを実施するとともに、参加者の構成要素に対する評価を明らかにするため、案内中に指定した要素を4段階で評価してもらうことにした。実施概要を表-6に示す。

なお、2015アースデイ・イン・川越 立門前は、環境保全団体が中心となってブース出展する行事であり、この地域内の主要な空間において開催されることから、回遊することによる行事の活性化も意図した。

各ルートの評価の高い要素5つずつを地図にプロットしたものを前掲の図-3に、これらの対象の説明写真を図-4に示す。なお、これらの写真は要素の状況を説明するために研究員が撮影したものであり、写真の構図そのものは評価していない（一部の写真は実施日のものではない）。

ルート1は、「本阿弥稲荷神社」「蓮馨寺の墓地」「蓮馨寺の2つの家紋」「蓮馨寺水舎」「庚申塔」という江戸時代から受け継がれる歴史的建造物の評価が高かった。なお、本阿弥稲荷神社は1778（安永7）年に伏見稲荷神社の末社になった。

ルート2は、「旧川越織物市場」「立門前通りの昭和初期の建築並び」「立門前通りの廃店舗建築」「古い街路柱」「旧栄養食配給所」という明治期から昭和中期に栄えたこの町並みの名残りとなるものが高い評価であった。なお、旧川越織物市場は1910（明治43）年に開設された。

ルート3は、「玩具店の古い看板」「中央通り二丁目商店街のアーケード」「道灌の山車」「おびつ第二売場」「4軒長屋」が高い評価であった。1933（昭和8）年に開通した中央通りの名残を留める要素の評価が高かった。古い看板は、閉店した玩具店に残されているもので、古いマークが1965～1975（昭和40～50）年に使われたものであることから、時代が推定できる。

ルート4は、「小川菊」「伊勢源」「川越商工会議所」「いせや」「伊勢亀本店」という明治から昭和初期に建てられた建物、また、それらのデザインを採り入れた現代建築が高い評価であった。最も評価の高い小川菊は、1924～1925（大正13～14）年の建築である。

これらのことから、各ルートは江戸、明治、昭和、大正というそれぞれの通りの特徴となる年代がくまなく評価され、地域の多様なイメージを作り出していることが明らかとなった。

3.まとめと今後の展望

本事業計画では、6月28日の予備調査、9月12日の昭和の街の感謝祭におけるツアー&ウォークラリー、10月4日の2015アースデイ・イン・川越 立門前におけるウォークラリーの3つの調査・イベントから、魅力的な要素を抽出して、定量的に評価を行った。

川越の観光として注目を集めているのは、このエリアのすぐ北側にある「川越一番街商店街」「菓子屋横丁」「時の鐘」の3つの要素を中心とした場所であり、1980年代後半から景観整備を進めて徐々に観光客を集め、それに伴い新たな店舗も建ち並ぶようになり、完成の域に達しつつある。一方、対象とした『昭和の街』周辺地域は、八百屋、肉屋、米屋、文具店、菓子屋、雑貨屋、その他専門店、飲食店など、住民を対象とした店舗が多く残されており、最近になって、流動する観光客も対象となる店舗が増えてきている状況にある。一方で、蓮馨寺、熊野神社、本阿弥稲荷神社の3つの寺社が江戸時代からの長い歴史をとどめるとともに、川越大火後の明治後期から、大正、昭和初期にかけて構築されたさまざまな様式の建築や店舗、昭和中期の最盛期であった看板等が併存する混沌としたイメージを形作っている。特に、同年代の建物が建ち並んだり長屋として残っていたりする状況が高く評価される傾向にある。

今回のウォークラリーでは、説明をすることによって初めて参加者がそのものの魅力を認知することが多かった。特にこの地域に住んでいる人が、今まで気づかなかったこの地域の魅力を発見した様子が見て取れた。

この地域が「ときめくまち」として高齢者をはじめとして住みよい地域となるには、多様な要素を紹介するような情報を積極的に発信するとともに、ツアーを定期的に企画するなどして、住民や観光客に対して魅力を認知させることが重要である。来訪者を増やすとともに、魅力的な要素を保存する機運が高まることが、この地域の住みよさにつながるものと考えられる。

次年度の研究計画においては、この情報発信を目的としたワークショップを開催して、この地域の混沌とした状況を渾然一体として認知されるようにして、地域活性化に寄与したい。

参考文献

- 1) 小瀬 博之, 尾崎 晴男, 齋藤伊久太郎, “川越市連雀町周辺地域を対象とした地域活性化ワークショップ”, 東洋大学地域活性化研究所報, No. 12, pp. 25-29(2015. 2)
- 2) 川越市: 地区街づくり協議会登録団体,
http://www.city.kawagoe.saitama.jp/shisei/toshi_machizukuri/machizukuri/toshikeikaku/toshikeikaku.html (2015. 7. 9 閲覧)